



つぎの授業で使える!

楽器活用例特集ページ

おんがくのひきだし

スズキの楽器をつかった音楽の授業・常時活動に使えるカンタンで楽しい、子どもたちの好奇心を高める“音楽づくりや音あそびなどの活用例・指導例”をご紹介します。

旋律
づくり

リズム
あそび

即興
演奏

音楽
づくり

音板がはずせる
あの楽器で♪

こんな時に使える
オススメ楽器♪



“おんがくのひきだし”は
スズキWEBサイトでも!

カタログ未掲載の活用例が盛りだくさん。
随時更新中ですので、ぜひご覧ください!

おんがくのひきだし 
www.suzuki-music.co.jp

まずは
“楽器活用例”を
クリック

楽器の
種類を選んで
クリック

楽器活用法の
解説動画を掲載

新着活用例は
バナー表示を
しています

製品情報 | **楽器活用例** | 教室案内 | 取扱店 | お問い合わせ・サポート | 会社情報 | 採用情報

ホーム > 楽器活用例

楽器活用例

おんがくのひきだし

おんがくのひきだしページは、スズキの楽器をつかった音楽の授業・常時活動に使えるカンタンで楽しい、子どもたちの好奇心を高める“音楽づくり・音あそびなどの活用例・指導例”をご紹介しますページです。

お知らせ [お知らせ一覧を見る](#)

- 2017年05月22日 [お知らせ](#)
【おんがくのひきだし】ひきだしの動画ページへ新着を2件追加しました。
- 2017年03月31日 [お知らせ](#)
【おんがくのひきだし】ひきだしの動画ページを公開しました
- 2017年03月01日 [お知らせ](#)
「打楽器活用例」に「リズムでお話ししよう～問いと答えを使って～」を追加しました。
- 2017年03月01日 [お知らせ](#)
「オルフ楽器活用例」に「簡単・楽しい! 旋律づくり! 楽器の長所を生かして」を追加しました。
- 2017年03月01日 [お知らせ](#)
「トーンチャイム/オルフ楽器活用例」に「和音の音から旋律づくり～ミニグロックンとトーンチャイムの音色を生かして～」を追加しました。

いろいろな楽器で使える活用例 [+](#)

メロディオン活用例 [+](#)

楽器活用例情報

- ひきだしの動画
- いろいろな楽器で使える活用例
- メロディオン活用例
- トーンチャイム活用例
- オルフ楽器活用例
- バスウッドドラム活用例
- 打楽器活用例

ひきだしの動画 

トーンチャイム/オルフ楽器活用例

和音の音から
旋律づくり
～ミニグロックンと
トーンチャイムの音色を生かして～
監修: 北海道八雲町立東野小学校教諭 中野 直先生

オルフ楽器活用例

簡単・楽しい! 旋律
づくり! 楽器の長所
を生かして
～ミニグロックン活用編～
監修: 茨城県立小千味小学校教諭 松本 誠先生

打楽器活用例

リズムでお話ししよう
～問いと答えを使って～
監修: 東京都立小千味小学校教諭 中野 直先生

メロディオン
活用例



鍵盤ハーモニカは音楽づくりでも大活躍！…… P10・P11

監修：筑波大学附属小学校 平野 次郎 先生

- ① 低学年 1音リレーをしよう
- ② 低・中学年 音のまねっこをしよう
- ③ 低・中学年 音で「おはなし」しよう
- ④ 高学年 和音の進行をもとに旋律をつくろう

トーン
チャ임
活用例



全音音階に親しもう！…… P12・P13

監修：筑波大学附属小学校 高倉 弘光 先生

- ① 1人1回鳴らそう
- ② トーンチャ임でこんにちは
- ③ 「ピッポッパ」で遊ぼう
- ④ 「全音音階」パスゲーム
- ⑤ パロディDE 全音音階

トーンチャ임で体感しながら楽しく学習…… P14

監修：淑徳大学 准教授 熊木 眞見子 先生

- ① 低学年 トーンチャ임で協同する喜びを学ぶ
- ② 中学年 音楽づくりにトーンチャ임
- ③ 高学年 合唱やリコーダー演奏にトーンチャ임の和音伴奏を組み合わせる

オルゴール
活用例



バスブロックバーで音楽しよう！(バスブロックバー 活用例)…… P15

監修：東京学芸大学 元准教授 石上 則子 先生

- ① バスブロックバーの特長である低音を生かした伴奏遊び
- ② 即興的なリズムアンサンブル

「音楽づくり」を支えるアイテム(ミニグロッケン 活用例)…… P16

監修：筑波大学附属小学校 中島 寿 先生

バスウツド
ドラム
活用例



子どもの表現活動によりそうバスウツドドラム…… P17

監修：筑波大学附属小学校 平野 次郎 先生

- ① 低学年・音楽遊び 拍に合わせて
- ② 即興表現の支えとして活用しよう

打楽器
活用例



リズムでお話しよう ～問いと答えを使って～…… P18

低学年

監修：函館市立八幡小学校 田辺 志穂 先生

いろいろな
楽器で使える
活用例

ドレミのあみだで“旋律”づくりを楽しもう！…… P19

監修：筑波大学附属小学校 中島 寿 先生

メロディオン活用例

メロディオン P24~

鍵盤ハーモニカは 音楽づくりでも大活躍！

監修：筑波大学附属小学校 平野 次郎 先生



鍵盤ハーモニカは主に1・2年生の楽器で活躍する楽器とされています。しかし鍵盤ハーモニカは「すぐに音が出せる」・「幅広い音域」・「目で見て音を確認できる」・「和音も半音も自由自在」・「息づかいで強弱をつけやすい」といった特性があります。こういった特性を考えると活躍の場をここだけに留めておくのはもったいないですね。まずは音楽づくりの学習で活用してみませんか？



活用例 1

低学年

1音リレーをしよう

自分が好きな音を演奏できる・音の高低の幅を楽しむことができる

- ① 基本のルールを確認する。
- ② ド〜ド(1オクターブ)の中で、自分の出したい音を1音選ぶ。
- ③ 1人ずつリレーする。(隊列は円が良いでしょう)

POINT

先生はウッドブロックやバスウッドドラムなどでテンポをキープします。



ウッドブロック



バスウッドドラム

基本のルール

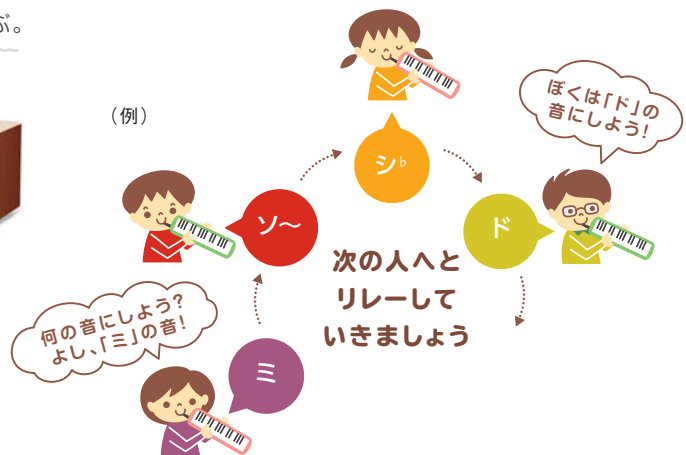
リズム 全員全音符

速度 ♩=100ぐらい

拍子 4/4拍子

小節 1人1小節

(例)



活用例 2

低・中学年

音のまねっこをしよう

旋律やリズム、音色に気をつけながら音あそびをする

- ① 基本のルールを確認する。
- ② 自分の使いたい音を決める。
- ③ 約30秒間、いろいろなリズムを自由に試す。
- ④ 1人ずつリレーし、そのまねもする。

POINT

まねっこは「1人とみんな」や、「となりの席の子と1人と1人」など、様々なバリエーションで試してみてください。また基本のルールの使う音や小節も実態に合わせてアレンジしてみてください。

基本のルール

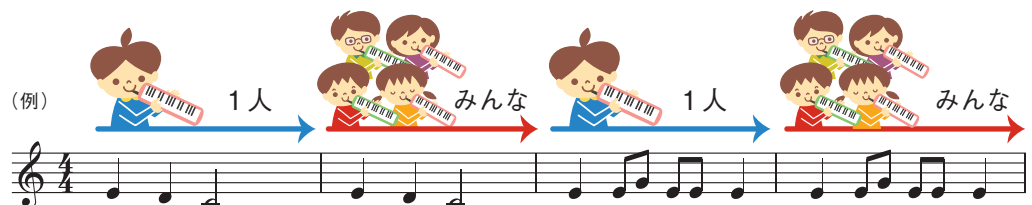
使う音



リズム 自由に

拍子 4/4拍子

小節 1人1小節



活用例
3

低・中学年

音で「おはなし」しよう

使う音を決めて問いかけたり答えたりする

- ① 基本のルールを確認する。
- ② 2人1組になり、役割「問い」と「答え」を決める。
- ③ 音でおはなしする。

POINT

先生はウッドブロックやバスウッドドラムなどでテンポをキープします。



ウッドブロック

バスウッドドラム

基本のルール

使う音と役割



問い

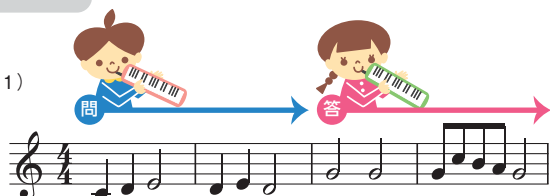
答え

リズム 自由に

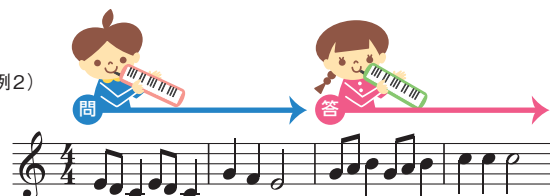
拍子 4/4拍子

小節 2小節ずつ

(例1)



(例2)



活用例
4

高学年

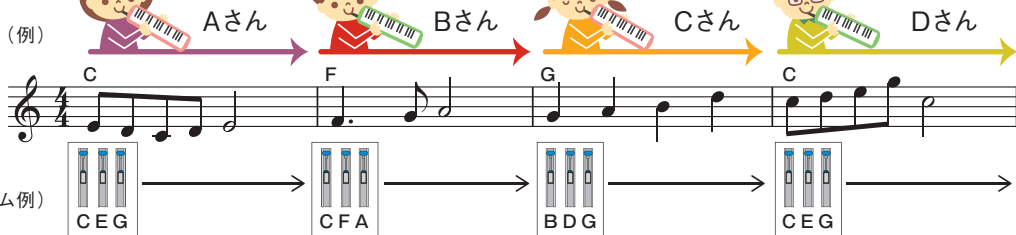
和音の進行をもとに旋律をつくろう

和音の進行を感じ取って仲間とともに4小節の旋律をつくる

- ① 基本のルールを確認する。
- ② 4人1組になり、役割を決め使う音を確認する。
- ③ 1人1小節の旋律を考える。(Aさんならド・レ・ミ・ソの音を使う)
- ④ つくった旋律を4人でつなげる。
- ⑤ 4人で聴き合ったあとに直したり変化をつける。
- ⑥ グループ毎に発表しお互いに聴き合う。

POINT

ここではI・IV・V・Iの和音進行を扱います。発表時は別グループがトーンチャイムで和音を鳴らす活動も取り入れるとよいでしょう。



(トーンチャイム例)

基本のルール

使う音と役割



ドレミソ Aさん ファソラド Bさん ソラシレ Cさん ドレミソ Dさん

リズム 自由に

拍子 4/4拍子

小節 1小節ずつ

webサイトでは、そのほかの活動もご紹介しております。ぜひ合わせてご覧ください。

変奏や調のちがいを楽しもう

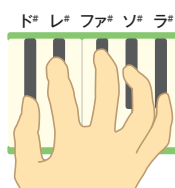
監修: 高知大学教育学部附属小学校
西山 ゆり子 先生



- 変奏曲をつくろう
- 調が変わって美しい

使う音を決めてあそぼう

監修: 佐世保市中里小学校
寺井 将史 先生



- 3音であそぼう
- 黒鍵で遊ぼう

アドリブを楽しもう!

監修: 上野原市立上野原西小学校
和智 宏樹 先生



- まねっこ遊び
- ジャズの雰囲気を感じて、アドリブを楽しもう
- 問いと答えを意識して、即興表現を楽しもう

トーンチャイム活用例

全音音階に親しもう！

監修：筑波大学附属小学校 高倉 弘光 先生



「全音音階」とは、ド・レ・ミ・ファ[#]・ソ[#]・ラ[#]…のように、となり合う音と音との音程がすべて「全音」(長2度)できている音階のことで「宇宙」「霧の中」「ふわふわ感」「雲の上を歩く感じ」などのイメージをもたせやすいのが特徴です。

トーンチャイムを使うと、「全音音階」がもつ特徴がより強調され、より魅力的に感じることができます。

ここでは「全音音階」の魅力を楽しく感じることができる音楽ゲームを紹介します。



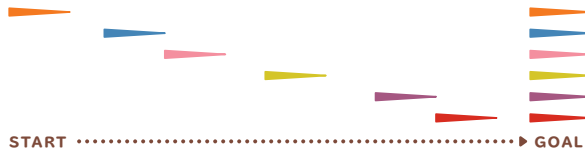
活用例

1

1人1回鳴らそう [人数:5~8人程度]



音のイメージ



- ①横1列に並びます。1人1人が「全音音階」の構成音のどれかを持ちます。
- ②端の人から1人1回、順に音を鳴らします。ただし、音を鳴らすタイミングは自由です。前の人が鳴らしたら、すぐに鳴らしても良いし、しばらく待ってから鳴らしてもよいのです。
- ③最後の人が鳴らし終わったら、全員で息を合わせて一斉に一回だけ鳴らしましょう。

活用例

2

トーンチャイムでこんにちは [人数:5~8人程度]

- ①広いスペースにバラバラになって立ちます。1人1人が「全音音階」の構成音のどれかを持ちます。
- ②「スタート」の合図で一斉に歩き始めます。偶然にすれちがう人と、息を合わせて同時に1回音を鳴らします。(偶然ですので、教室のあちこちでランダムに「全音音階」の和音が響くことになります。)
- ③1人4回鳴らしたら、その場に立ち止まりましょう。

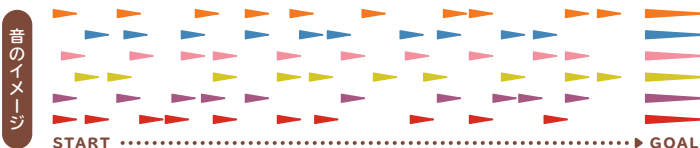


活用例
3

「ピッポッパ」で遊ぼう [人数:5～8人程度]



1人10回鳴らす



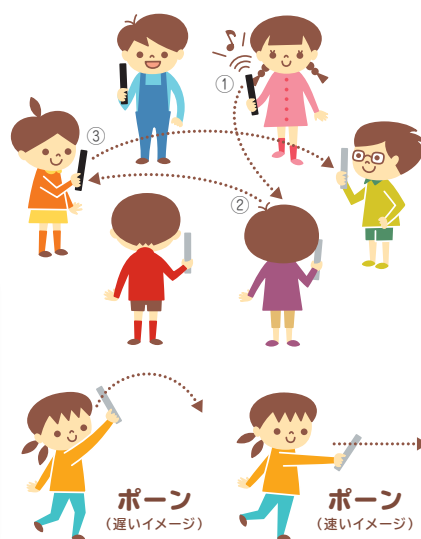
- 横1列に並びます。1人1人が「全音音階」の構成音のどれかを持ちます。
- [スタート]の合図で、全員が一斉に好きなタイミングで10回音を鳴らします。
ただし、鳴らし方は次の通り。
★音を鳴らしてすぐに、トーンチャイムを持っている逆の手のひらで、トーンチャイムの頭部を押さえ、音を止めます。
- 全員が10回ずつ鳴らし終わり、シーンとなったら、
息をあわせて同時に1回鳴らして音楽を終わらせましょう。



活用例
4

「全音音階」パスゲーム [人数:6～8人程度]

- 輪をつくって立ちます(内側向き)。1人1人が「全音音階」の構成音のどれかを持ちます。
- 最初の1人を決め、その人が輪の中の誰かに向けて、音を鳴らします。トーンチャイムを向けるなどして、誰に音をパスしたのかわかるようにしましょう。音をパスされた人は、また別の人のに向けて音をパスします。音を鳴らし終わった人は、立てひざになって、まだ音を出していない人と区別できるようにしましょう。
- 慣れてきたら、目には見えない音がどの程度の速さで相手に届くのかをトーンチャイムを振りかざすジェスチャーで表現したりすると面白いでしょう。



活用例
5

パロディDE 全音音階

「かえるの合唱」「キラキラ星」など、簡単に演奏できる曲を「全音音階」に変身させてみましょう。どんな感じになるでしょうか…。



「かえるの合唱」
全音音階バージョン

ド	レ	ミ	ファ#	ミ	レ	ド	え
ミ	ファ#	ソ#	ラ#	ソ#	ファ#	ミ	え
ド	え	ド	え	ド	え	ド	え
ド	レ	ミ	ファ#	ミ	レ	ド	え

カノンにしても
おもしろい
ですよ

トーンチャイム 活用例

トーンチャイム P100～

トーンチャイムで 体感しながら楽しく学習

監修：淑徳大学 准教授 熊木 眞見子 先生



活用例
1

低学年 トーンチャイムで協同する喜びを学ぶ

「全員で一つの音楽をつくっていく体験を通して、協同する喜びを感じる」

トーンチャイムの最大の特長は、一人一人がそれぞれの音を担当し、みんなで一つの音楽を創り上げるという点にあります。

「きらきら星」を演奏してみましょう。

- ①「きらきら星」を全員でドレミで歌った後、「使われている音はいくつかな？何の音かな？」と子どもたちに質問して「ド」「レ」「ミ」「ファ」「ソ」「ラ」の6音であることを確認します。
- ②子どもたちの中から6人選びます。
1人1音ずつトーンチャイムを持ち、担当音を記した紙を首からさげ順に横に並んで立ちます。
- ③先生は並んでいる子どもたちの前に立ち、「ド、ド、ソ、ソ、ラ、ラ、ソ…」と、「きらきら星」の歌の通りにそれぞれの音を担当する子どもを指さしていき、指さされた子はトーンチャイムを鳴らしていきます。



活用例
2

中学年 音楽づくりにトーンチャイム

「様々な音を探したり音をつくったりして音の面白さに気付く」

トーンチャイムを鳴らしたまま持続させる音と、止める音を組み合わせて面白い活動ができます。

トーンチャイムの響く音と響かない音でリレーしてみましょう。

- ①子どもたちは1本ずつ好きな音のトーンチャイムを選び、全員で中を向いた輪になって立ちます。
- ②トーンチャイムを鳴らしてすぐに逆の手の平でトーンチャイムの先端に触れると「コン」と音が止まります。この音の止め方を練習しましょう。
- ③次に自分が鳴らす音を②のように止めるのか、響かせたままにするのかを決めます。ただし前の人が響く音だったら次の人はその響きがほとんど消えたら次の音を鳴らします。前の人が響かない音だったら、次の人はすぐに自分の音を鳴らします。つまり、前の人がどちらの鳴らし方をするかによって、次の人が鳴らすタイミングが変わるということです。
- ④最初に鳴らす子を決め、その子から順番に1回ずつトーンチャイムを鳴らしていきましょう。響く音が続き、ゆっくりと順番が回っていきませんが、響かない音が続けばどんどん回っていくことになります。どうなるかわからないところが面白いのです。



一人ずつ順番に

活用例
3

高学年 合唱やリコーダー演奏にトーンチャイムの和音伴奏を組み合わせる

「音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを聴き取る」

トーンチャイムで和音伴奏してみましょう。トーンチャイムは音が個々に分かれているため、和音の構成を演奏の中で実感できます。

「静かにねむれ」をトーンチャイムの和音伴奏で歌ってみましょう。

- ①「静かにねむれ」の和音進行はI-IV-I-V…となっています。それぞれの和音を構成している音を黒板に書き出しましょう。
- ②子どもたちはそれぞれの担当音を記した紙を首からさげ、順に横に並びます。
- ③「静かにねむれ」をみんなで歌うかリコーダーで演奏します。和音を鳴らすタイミングに合わせ、「I」なら黒板に書かれた「I」を、「V」なら「V」を先生が棒で指し示します。トーンチャイムの奏者は先生がいずれかの和音を指し示すと同時に、その和音を鳴らします。



Iの和音＝ド・ミ・ソ
IVの和音＝ド・ファ・ラ
Vの和音＝シ・レ・ソ
Vの7の和音＝シ・ファ・ソ

バスブロックバー活用例

バスブロックバーで 音楽しよう!

監修: 東京学芸大学 元准教授 石上 則子 先生



活用例 1

バスブロックバーの特長である低音を生かした伴奏遊び

低学年のわらべうた遊びでは、体を動かしながら歌います。ここに伴奏を加えることで、その遊びが音楽的に高まります。歌(言葉,リズム,旋律)・動き(拍の流れ,フレーズ)・伴奏(拍の流れ,低音のリズム,旋律,音階)が一体となる表現は、子どもたちにとって豊かな音楽活動になります。低～中学年では、繰り返す低音の旋律(オスティナート伴奏)として、また合奏の低音部として生かすことができます。高学年では、ヘ音記号を楽譜上で学習する時やそれを生かして低音を合奏に加える時などに活用できます。



〔例〕わらべうた「なべなべそこぬけ」に伴奏を加える

歌 な べ な べ そ こ ぬ け そ こ が ぬ け た ら か え り ま し ょ

ラ ソ ラ ソ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ シ シ ラ ラ ラ ソ ラ

伴奏

ラ ミ ミ ラ ラ ミ ミ ラ ラ ミ ミ ラ ラ ミ ミ ラ



活用例 2

即興的なリズムアンサンブル

活動の流れ

- 1 まず1番低い音に使う1音を選びます。
- 2 最初に選んだ1音に合う音を2音選びましょう。
- 3 1番低い音の人は同じリズムを繰り返し演奏します。
上の2音の人は1番低い音のリズムに合わせて演奏します。
交互に演奏して音で会話したり、一緒に演奏してみましょう。
反復する回数を決めて演奏しても良いでしょう。
- 4 先生か、1番低い音の演奏者が、終わりの合図をします。

〔例〕「レ」「ファ」「ラ」のバスブロックバーを使用する。

2小節で交代

ファ

ラ

同じリズムをくりかえす

レ

ミニグロッケン活用例

「音楽づくり」を支えるアイテム

ミニグロッケン P120

サウンドブロック P122



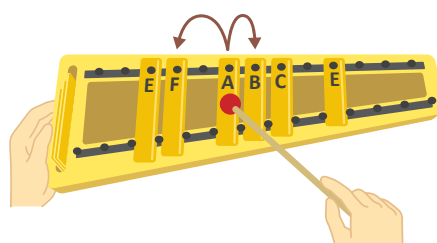
監修：筑波大学附属小学校 中島 寿 先生

写真は、「さくらの音階で音楽をつくろう」という活動をしているところです。「さくら さくら」という日本古謡がありますが、この旋律は、「ミ・ファ・ラ・シ・ド・ミ(E・F・A・B・C・E)」という音階でできています。この音階を使って、ひとり一人が即興で4小節の旋律をつくる活動です。



対面している2人でメロディーをつなげたり重ねたりしやすいように、輪になって活動しています。二組が楽器を持っているのは、音楽がつながるようにするためです。一組が演奏し終わったら、すぐに、もう一組が演奏を始められます。その間に、終わった組は左の人に楽器を渡します。

演奏のルールは簡単、どの音から始めてもよいけれど、常に隣の音に進むようにします。リズムは、自由。たったこれだけです。しかし、この活動を鍵盤ハーモニカやリコーダーで行うのは、意外にむずかしい。そこで、活躍するのが、「ミニグロッケン」です。



POINT

常に隣の音に進みましょう



「グロッケン」、つまりは鉄琴なのですが、スタンドにのった大げさな鉄琴ではなく、片手の上にものせられるくらいのかわいいものです。とはいえ、おもちゃではなく、しっかりとした音程、良い響きの立派な楽器です。さらに、このグロッケンは、音板をはずすことができるので、必要な音だけを残し、あとははずしてしまうという、「音楽づくり」の学習には、ありがたい離れ業が可能です。何が都合よいかというと、たとえば、この活動のように特徴のある音階を使って旋律などの音楽づくりをするときには、その構成音だけを残しておけば、だれにでも「間違いのない」即興演奏ができるという点です。ルールさえ理解できれば、難しい知識や技能がなくても、自分の音楽をつくって演奏することができるわけです。

特徴ある音階はいろいろあります。たとえば、ド・ミ・ファ・ソ・シ・ド(C・E・F・G・B・C)にすると沖縄風音階、レからレ(D・E・F・G・A・B・C・D)までだとドリアの音階という具合です。

写真のグロッケンの後ろで演奏している楽器は「サウンドブロック」です。鉄琴を一音一音独立させて、共鳴ボックスの上に乘せたものです。この活動では、ミとラの二音を使い、低音部のオスティナート伴奏に使っています。どちらの楽器も、手で持てるので、音楽での会話や全員をつないだ音楽づくりの活動などに重宝します。

webサイトでは、旋律の例や活動の流れをご紹介します。ぜひ合わせてご覧ください。

バスウッドドラム活用例

子どもの表現活動によりそう

バスウッドドラム

監修：筑波大学附属小学校 平野 次郎 先生

これからは1校に
1台バスウッド。
器楽でも、
音楽遊びでも、
音楽づくりでも！



活用例
1

低学年・音楽遊び

拍に合わせて 拍に流れを感じ取って、体で表現する

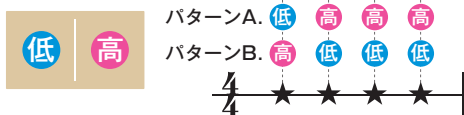
活動の流れ

- 1 全員で1つの円になる
- 2 拍に合わせて1人ずつ座る
- 3 速度を変化させて楽しむ
- 4 拍子を変化させて楽しむ



〔例〕

まずは先生がバスウッドドラムで拍をきざみます。
パターンA.かB.のように1拍目の音の高さを
変えるとわかりやすくなります。



速さの目安

はやい ♪ = 120
ふつう ♪ = 80
ゆっくり ♪ = 60

おすすめポイント

- ✓ フタをスライドさせると音色が変わる
- ✓ 強く叩いても優しい音色
- ✓ マレットでも、手の平でも表現できる
- ✓ キャスター付きのスタンド使用で子どもの近くに



歌唱や器楽で「拍の流れにのれない
子がいて困っています」という先生の
声をよく聞きます。この活動ならば、
みんなで楽しく体を動かしながら、拍
の流れを感じとることができます。



活用例
2

即興表現の支えとして活用しよう

活動の流れ

- 1 基本のルールを確認する。
- 2 全員で1つの円になる。
- 3 先生は円の中心で拍を刻み、子どもたちは先生の拍に合わせて、順番に即興演奏をする。
- 4 先生のリズムパターンを変化させて楽しむ。



POINT

メロディオンやリコーダーで
の即興演奏の時に、子どもが
安心して表現することができる
ように、先生がバスウッド
ドラムで拍を刻みます。

〔例〕

メロディオンの場合

基本のルール



使う音 速度 ♪ = 90くらい
リズム 自由に 拍子 4/4拍子 小節 1小節ずつ



〔例〕

リコーダーの場合

基本のルール



使う音 速度 ♪ = 90~100くらい
リズム 自由に 拍子 4/4拍子 小節 1小節ずつ



打楽器活用例

2016年度
全日本音楽教育研究会
全国大会函館・道南大会

打楽器セット P126

ハンドドラム P143

ラップトップカホン P147

カスターネット
(チッチ&タッタ&トット) P132

リズムでお話しよう～問いと答えを使って～

監修：函館市立八幡小学校 田辺 志穂 先生

低学年用



① 2人1組になり、役割「問い」と「答え」を決める。

② 1小節ずつ、交互に演奏して音でお話する。

POINT 同じリズムで答えたり、違うリズムで答えたりする。

③ 5～8小節目は、「問い」と「答え」の役割を入れ替えたり、2小節交代にしたりする。

【例】Aさん鈴、Bさんトライアングル

同じリズムで答えたよ!

違うリズムで答えたよ!

「問い」と「答え」の役割を入れ替えたよ!

【例】Cさんウッドアゴゴ、Dさんラップトップカホン(バンバン)

同じリズムで答えたよ!

違うリズムで答えたよ!

長い「問い」と「答え」にしたよ!

POINT



先生がバスウツドラムなどで拍を刻むと、子どもたちが流れを意識しやすくなります。



POINT

- ・「問い」と「答え」でお話ができたら、音色や強弱などの工夫を取り入れると、よりおもしろい活動になります。
- ・2人組で使用する楽器は、似た系統の楽器や同じ楽器の方が、音色や強弱などの工夫に繋がりがやすくなります。ラップトップカホン(バンバン)やハンドドラム、ウッドブロックがおすすめです。
- ・同じ楽器を使用する場合は、鈴(中音・高音)やカスターネット(チッチ・タッタ・トット)など、音の高さが異なるものを使用するとおもしろいでしょう。同じ「鈴」なのに、AさんとBさんで音色が違った!などの発見が生まれます。

いろいろな楽器で使える活用例

ドレミのあみだで “旋律”づくりを楽しもう！

監修：筑波大学附属小学校 中島 寿 先生



メロディオン P24～

リコーダー P73

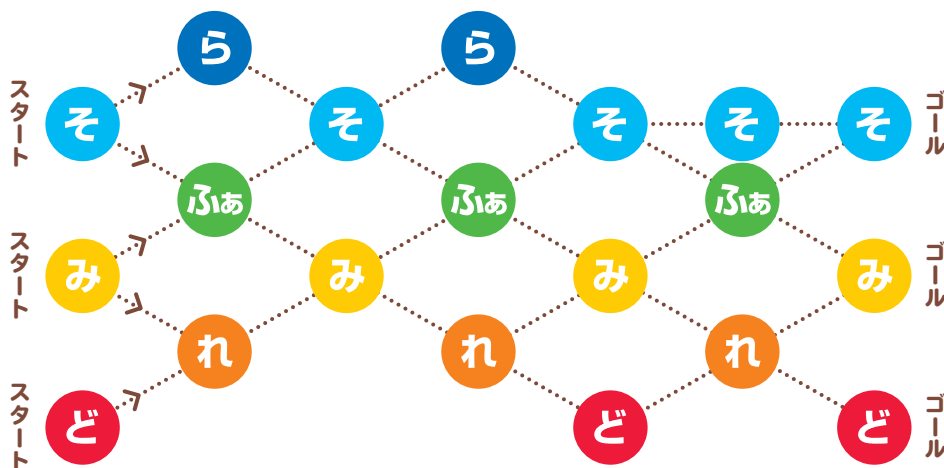
オルフ楽器 P116～

①右の図を見ながらドレミを 結んで旋律をつくりましょう。

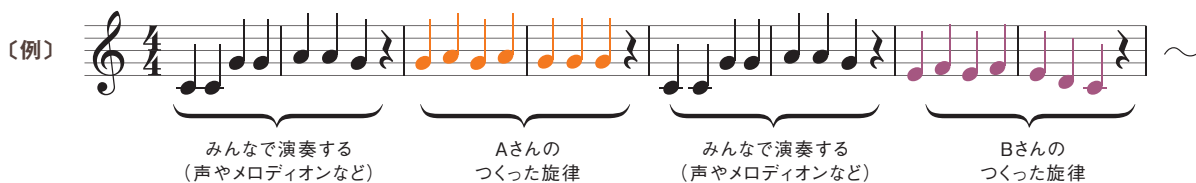
メロディオンやリコーダーでもカンタンに演奏できます。また、ザイロホーンやミニグロッケンなどの、音板を自由に取り外せる、便利なオルフ楽器を使用してもよいでしょう。

ルール

- スタート(ど・み・そ)からはじめてゴール(ど・み・そ)まで………を結んで旋律をつくります。
- 後ろへは戻らないで、全部で7つの音をつなぎましょう。
- 楽譜に書かないで、即興でつくるようにしましょう。

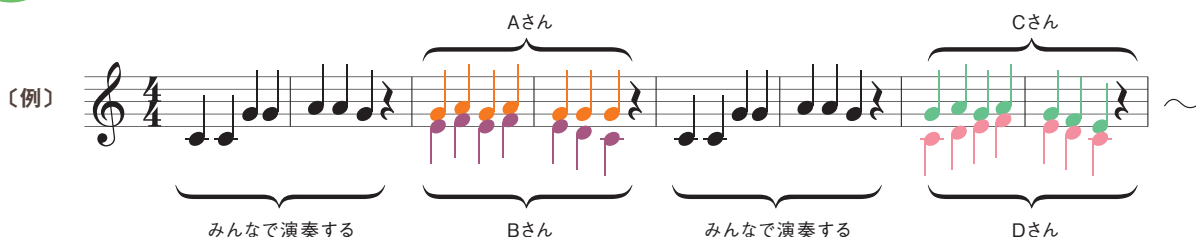


②みんなで演奏する旋律(きらきらぼしの初めの部分)の間に、つくった旋律を入れてロンドにしてみましょう。



発展 1

②の活動で「つくった旋律」を2人ずつ演奏してみましょう。すると、きれいな2重奏になります。3人でもできますのでいろいろ試してみてください。



発展 2

ここまでと同様に、登場する音を沖縄音階にすることで「沖縄風の旋律」をつくることもできます。